

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

# Agresh 10

2020. VOLUME.127

あぐれっしゅ



10周年 感謝を忘れず、  
この先も共に

特集

コロナ禍での新たな販売戦略

〜青果市場、米卸業者らと

初のウェブ会議〜



JAは地域社会の課題解決とともに、SDGsの達成へ貢献していきます。

©よい企画プロジェクト

実りの秋  
新米を食べよう!

腕 じまん

地域じまんのモノ語り

東北最大級のファーマーズ・マーケット

10.9 金曜

かだあ〜れ

OPEN

映えて集客狙う



▲神威に玉串を捧げる  
畠山組合長

▲大型スクリーンで完成までの  
流れを紹介する斗澤専務

当JAのファーマーズ・マーケット「かだあ〜れ」が十和田市三本木里ノ沢に完成し10月9日にオープンしました。正面入口の外壁には、野菜や肉の写真が立体的に見えるトリックアートを設置し、映える写真で豊富な農畜産物をアピールしています。

売り場面積は約800平方メートルあり、JA産直施設のなかでは東北でも最大クラスの規模になります。建設地では9月28日、工事関係者、市町村長、JA役職員ら80人が出席し竣工式を開きました。あいさつで、畠山一男組合長は「販売農家の育成と農家所得の増大を図る拠点とし、地域の消費者に新鮮で高品質な農畜産物を提供していく。楽しい仕掛けで、集客につなげていきたい」と述べました。

完成祝賀会で、斗澤康広専務が建築工事着工から完成までの歩みを店内の大型スクリーンで紹介。今後スクリーンでは、レシピや畑の動画なども紹介していきます。

営業時間 / 9:00~18:00 定休日 / 毎月第2水曜日  
青森県十和田市大字三本木里ノ沢41  
TEL.0176-51-4020 FAX.0176-51-5390

公式Facebook  
JA十和田おいらせ

■令和2年10月8日発行 ■発行/十和田おいらせ農業協同組合 〒034-0081 青森県十和田市西十三番町4-28 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1829  
■編集/JA十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ <http://www.jatowada-o.or.jp> ■E-mail/soumu@jatowada-o.or.jp ■印刷/アート印刷



売り場 案内図



▲出荷会員の朝取り野菜をメインに、JAブランド「十和田おいらせ」ミネラル野菜(TOM-VEGE)」、銘柄牛「あおもり十和田和牛」、地元産米「まっしぐら」、焼きたてパンなどが並びます。

表紙紹介

● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.98

けいしょうびと

# 継承×人

十和田湖支店管内

たがみ

としくは

田上 俊邦さん(38)

## 助け合う

## 結の大切さ知る



9月17日撮影

空模様を気にしながら、稲の生育具合を確認する。9月中旬、雨の日が続いた。「刈り取りは、もうできる状態」と、順調な生育に安堵した表情を見せる。近所の米農家からも稲刈り作業を請け負い、加えてニンニクの植え付けも始まるため、これからますます忙しくなる。

収穫間近かの「まっしぐら」を手に「秋空は変わりやすいが、天気が回復して早く実りの秋を実感したい」と声を弾ませる。

ニンニク作業など、人手が多く必要な時は近所の農家と共同で作業をする。野菜振興会の支部役員も務める田上さんは「農業を通じて知り合いも増え、教えてもらったり、協力し合ったり、結(ゆい)の大切さを痛感している」と話す。

### 省力化、効率化にも挑戦

米作りの省力化、効率化に向け、水稻の直播栽培やトラクターでGPSを使った代掻きなどにも挑戦中だ。

今後の目標について、「あと10年もすれば、米作りをやめる人が増えてくると思う。そのためにも、作業を請け負う体制を整えていきたい。少しずつ資金をためて、農業機械の更新や乾燥施設等を整備していきたい」と思いを述べた。

プロフィール…

たがみ としくは(十和田市沢田)

組合員=本人

家族構成: 祖父母、母、弟

農業経営: 水稻6畝、ナガイモ40畝、ニンニク30畝、大豆1.5畝

夏はジェットスキー、冬はモータースキーと、趣味も多彩。仕事と遊びにメリハリをつけて楽しむ。

### 祖父からの経営移譲

就農して13年になる。就農前は首都圏の青果市場で働き、祖母の病気を機にUターン。会社勤めをしながら、祖父の農業を手伝ってきた。30歳の時に祖父から経営移譲され、農業に専念。米は倍の6畝に広げ、いったん作付けをやめていたニンニク栽培を復活させた。現在は新たにナガイモの作付けにも挑戦している。

### 近所の人たちが支え

祖父が病に倒れ本格就農してからは、ほとんどの作業を一人でこなしてきた。米、ゴボウ、ニンニクを作付けし、作付面積も大きかったため、管理が行き届かなかった。さらに、人件費や肥料代など経費もかさみ「収入に結びつかなかった」と当時を振り返る。

告知版



## JA収穫祭開催

### みんなかだあ〜れ!!

10/17(土)・18(日)

両日とも 9:00~15:00

場所 ファーマーズマーケット  
「かだあ〜れ」 特設会場  
十和田市大字三本木字里ノ沢4-1



- 催し内容
- 米・やさい・畜産物消費拡大イベント
  - 特産品・加工品即売コーナー
  - JA事業PRコーナー
  - 歌謡・演芸ショー
  - JA女性部舞踊、じゃんけん大会等

トリ☆ボン



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来場の際はマスクの着用をお願いいたします。また、発熱などの症状がある方は、入場をお断りさせていただきます。  
※新型コロナウイルスの感染状況により開催を中止する場合がありますので予めご了承ください。



17(土) 13:10~

八戸学院光星高等学校  
チャリディング部ショー

18(日) 11:00~

18(日) 10:00~

うっちゃんみかちゃんの  
県南おもしろ事件簿  
ラジオ公開生放送!!



サエラショー

金融部 **ローン相談会** 毎月**第3日曜日**  
(本支店のご案内) **9:00~16:00**

10月 18日

相談会場  
本店、ももいし・下田  
上北・むつつの5店舗

11月 15日

相談会場  
本店、ももいし・下田  
七戸・むつつの5店舗

24時間365日受付中



もくじ contents

あぐれっしゅ vol.127 **10**  
(神無月・かんなづき)

特集 4~5p

コロナ禍での新たな販売戦略  
~青果市場、米卸業者らと初のウェブ会議~

継承人 ..... 3p

NEWS&TOPIC

地域の話題 ..... 6~9p

協同のチカラで  
組合員組織代表者に聞く  
..... 10~11p

子会社通信...  
(株)協同サービス ..... 12p

ふれあい広場  
頭の体操 **パズル?** ..... 13p

information ..... 14p

腕じまん  
地域じまんのモノ語り ..... 16p  
ファーマーズ・マーケット  
「かだあ〜れ」オープン!

JAの概況 令和2年10月1日現在  
正組合員数/6,433人  
准組合員数/5,277人  
役員数/26人  
職員数(准職・嘱託含)/279人  
貯金高/803億7,215万円  
貸出高/180億3,177万円

農業機械・農業に関わる

設備資金等の相談も承ります。

各種ローンを取り扱っております。会社員の方、自営業の方、JAとのお取引がない方もお気軽にご相談ください。各種ローンがネットで仮申込みできます。申込み方法は「JAネットローン」で検索!!

# コロナ禍での新たな販売戦略

## 青果市場、米卸業者らと初のウェブ会議



当JAでは8~9月にかけて、本店で首都圏の青果市場や関東・中京の米卸業者とネットをつないだウェブ会議を開きました。コロナ禍で県外での販売要請が難しいなか、顔の見える新たな販売戦略として始動しました。取引先から消費者の購買動向、消費構造の変化、野菜価格の現状など報告があり、JA側からは生産状況などを伝えました。

JAでは当面の期間、ウェブ会議を通じて需要者側との情報共有・連携強化を図り、販売拡大や有利販売を目指します。

今回の特集では、情報交換の様子を一部紹介します。

### 野菜販売要請 (8月31日、9月1、3日間、各市場と実施)

取引先側	年間取引額
東京シティ青果(株)	3.8億円
(株)奈良大果	3.0億円
セントライ青果(株)	1.9億円

参加者  
3社からは、代表取締役社長、担当役員ら  
JA側/畠山一男組合長、斗澤康広専務、小向豊常務理事  
馬場義満指導やさい部長、紺野薫やさい販売課長

### JA(産地情報の提供)

春先の低温、7月の長雨、8月の酷暑の影響を受け、病害虫の発生により減収となった作物もあるが、おむね良品質出荷ができています。主力のダイコン出荷は9月以降にずれこむことや、長ネギが増量となるため、売り場を確保してほしいことなどを要請。また、新デザインパッケージを追加して発売する「低臭プレミアムにんじく」を使ったニンニクパウダーの商品提案などを伝えた。

### 取引先側(購買動向、消費構造の変化、価格の現状)

- 学校の休業や多くの企業がテレワークを導入したことにより、「家庭内食」の需要が一気に増えた。学校給食の復活後、給食の内容が簡素化されてきている。外食産業が停滞している一方、量販店(スーパー)での野菜の取り扱いが増えた。今まではら売りが好まれていたが、人が触れたのを嫌い、袋詰めや少量の箱詰めが売れている。
- 各家庭で料理をするようになったことは、産地としてもメリット。海外からの冷凍野菜が今も幅を利かせているなか、国産の冷凍野菜が求められている。
- 仲卸は外食産業から量販店、小売店へ売り先をシフトしている。仕向け先をしっかりと、価格形成につなげたい。JA 十和田おいらせ産の魅力は、少量多品目の産地であり、PRしていきたい。
- 店頭での試食ができない状況にあるため、SNSを通じた動画により料理方法を伝えられないか。

など



### 変化に産地はどう対応すべきか

新型コロナウイルス感染症の拡大により消費と流通構造が変化しているなか、生産体制を維持しながら、需要者側との情報共有、連携強化が重要になっている。斗澤康広専務は「相手の反応を見ながらの商談は安心感がある。消費動向に合わせた商品の提案、出荷アイテムも増やしていきたい」と強調。馬場指導やさい部長は「移動距離に時間がとられない分、より多くの取引先との情報交換が可能になった。ウェブ環境を整え、圃場からも産地情報を発信していきたい」と話す。

### 販売力強化

商品力の強化+販売交渉力=販売単価の上昇  
販売量の増加×販売単価の上昇=農家所得の向上

### 米の販売要請

(9月10日、14日米卸業者3社(関東、関西、東海))

#### 取引先側

取引先3社へ	計103,000俵出荷
産地直送米	2万俵出荷
当JAの主食用米取り扱い数量	約273,000俵

(1俵=60kg)

#### 参加者

JA側/畠山一男組合長、斗澤康広専務、小向豊常務理事  
工藤惣史米穀畜産部長、水尻亨米穀課長

### JA(産地情報の提供)

米の生育は順調で、平年並みの収量を見込み、安定供給ができることを報告。平成30年産米から販売をスタートしている産地直送米「まっしぐら」の評価と、今後の販売見込み数量を聞きたい。

今後の米の生産調整については、国の交付金も含め、手取り額の目安が分かる一覧表を生産者に配布し参考にしてもらっている。作付けの用途変更、誘導策として国がどう動いてくるのか。現状、飼料用米は需要に対して供給が少ない状況にある。収量性の高い飼料用米の新品種もでているため誘導していきたい。

### 卸業者(購買動向、消費構造の変化、価格の現状)

○国の緊急事態宣言後、3~4月は家庭内消費や家庭内備蓄が増え、前年比120~150%だった。5月以降も前年を上回る販売で推移している。一方、外食産業の停滞から業務用の需要は、前年比10~20%減。需要の回復には時間がかかるため、店頭での販売強化を図っている。ただ、新規の営業商談がとれないのが、販路拡大の足かせになっている。

○産地直送米「まっしぐら」は、販売開始から1年半、販売価格と食味の良さのバランスがとれているため、リピーターが増えている。昨年は1,200円、今年産米は2,000円と契約を増やした。特売で売り込み、固定客につなげている。

○米の供給過剰のなか、令和3年産米で生産調整ができるか。令和2年産米の価格帯にも響いてくる。生産者はどうとらえているのか。

需給バランスの調整は飼料用米が受け皿になると思う。どう補填金を手厚くするか。飼料用米に作付けをシフトして、主食用米の価格を安定させる状態をつくるのが大事。

など

**生産拡大 所得増大** 契約ジャガ害虫 トマトで防ぐ

～加工向け所得増も期待～

横浜町支店管内で、試験的に導入した契約加工トマトが収穫を迎えました。加工パレिशョの転作として栽培。パレिशョの収量減の原因となるジャガイモシストセンチュウの対策としてどの程度効果があるかも調べます。JAではほ場のセンチュウ密度を調査、分析していきます。

今年は7月の低温と長雨で着果数が少なく減収となりました。二木春美パレिशョ部会長は「10㌧収量が2.2㌧と目標の半分だったが、センチュウ対策の効果がでてほしい」と期待しています。



▲パレिशョの後作に栽培した加工トマトを収穫する農家と受託会社の関係者

**生産拡大 所得増大** 選果場の衛生管理学ぶ ～制度化で対応急務～

JAの指導やさい部は9月15日、(社)日本生産者GAP協会が主催する「青果物集出荷施設の衛生管理」研修会に参加し、選果場における食品安全対策の取り組みを学びました。

今年6月、施行されたHACCP(ハサップ)制度についての勉強会で、全国のJA関係者や青果物集出荷施設担当者、生産者が茨城県つくば市とのリモートワークに参加しました。HACCPとは「Hazard(危害)」「Analysis(分析)」「Critical(重要)」「Control(管理)」「Point(点)」という言葉の略語で、食品を製造する際に安全を確保するための管理手法のことを言います。

同制度は来年6月に義務化されるため、JAでは「計画の作成や現場の状況と具体的な改善策など、できるところから実践し、当JAの衛生管理手順を構築していく」と話しています。



▲リモートワークで衛生管理の技術を学ぶJA職員

**生産拡大 所得増大** 秋ダイコン収穫ピーク ～11月上旬まで収穫～

ももし・下田の両支店管内で秋ダイコンの収穫が最盛期を迎えました。9月中旬までは天候不順の影響で細め傾向ではあったものの、その後の降雨で平年並みに回復。収穫は11月上旬まで続きます。

下田支店管内のほ場では9月17日、収穫機2台がフル稼働しました。同支店の山田智史指導員は「品質は良好。今後は病害虫の増加が予想されることから、生育状況に合わせた防除の徹底で高品質、安定出荷につなげたい」と話しました。



▲収穫が本格化したダイコンのほ場

**NEWS & TOPIC** 地域の話

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化(地域貢献)」に向け、JA十和田おいらせは「創造的JA自己改革」の取り組みを実践中です。

**地域活性** 真っすぐ 地元育ち ～児童がゴボウの手掘り体験～

当JAは9月2日、十和田市立藤坂小学校3年生の30人に農業の仕事や野菜の栽培方法を教えました。児童は十和田市でナガイモやゴボウを栽培する竹ヶ原善昭さんを先生に、畑でナガイモの観察やゴボウの手掘り作業などを体験し、農業の魅力に触れました。

ゴボウの手掘り体験では力いっぱい引き抜き、大きく育ったゴボウと背比べしている児童もいました。収穫体験した児童は「土の中でこんなに伸びているのにはびっくり。洗って丸かじりしてみたい」と笑顔で話しました。



▲農家の竹ヶ原さんからゴボウの生育具合を聞く児童

**生産拡大 所得増大** 水稻種子の作柄良好 ～来春稲作農家へ供給～

十和田市七郷地区の水稻種子採種ほ場で9月16日から県奨励品種「まっしぐら」の刈り取りが始まりました。作柄は良好で、農産物検査法に基づき検査に合格したものが、来春に県内全域の稲作農家へ供給されます。

75㌧に作付けた椋田章一さんは「天候に左右されることなく、順調に生育した。品質、収量とも良質な優良種子として県内の稲作農家に供給できる」と話しています。

**生産拡大 所得増大** 全量一等米スタート ～適期刈り取り呼びかけ～

令和2年産米の初検査が9月23日、十和田市深持の米大型低温倉庫で行われ、十和田市藤坂の農事組合法人六日町が同月17日に刈り取った「まっしぐら」3.24㌧が全量1等米に格付けされました。

本年産は、5月下旬から7月上旬までの気温が平年より高く推移。県の調査によると9月1日現在では、平方メートル当たりの穂数が平年比111%で、もみ数も平年を上回りました。

畠山一男組合長は「全量1等に安堵している。当地のまっしぐらは、消費地から高評価を得ており、米農家の再生産意欲につながるよう販売努力していく」と述べました。



▲「まっしぐら」を検査する農産物検査員のJA職員



▲刈り取りが行われた水稻種子採種ほ場